

な た で ら      さ ん じ ゅ う の と う  
那谷寺      三重塔

種 別	重要文化財 建造物
指定年月日	昭和 25 年 8 月 29 日
所 在 地	那谷町 (那谷寺)

三重塔は、境内南側の山腹にある。三間四方の三重塔で、頂点の宝珠塔までの高さが11.5メートルの比較的小ぶりの塔である。初層に心柱<sup>(1)</sup>を通さず、心柱は2層目から屋根上の相輪へ至っている。このため心柱の無い初層内部は広く、中央に鎌倉時代初期の作とされる胎蔵界大日如来像が安置されている。

塔の屋根は、初層よりも2、3層目の屋根が小さくなっており、安定感のある姿を見せている。初層の四面外側には、欄間<sup>らんかん</sup>に牡丹、戸の左右に唐獅子の彫刻が施され、また戸には上部に菊水の透彫が、下部に菊花の彫刻が施されている。

また青銅製の相輪<sup>そうりん</sup><sup>(2)</sup>の露盤<sup>ろばん</sup><sup>(3)</sup>の銘文には、寛永19年(1642)9月に、前田利常が幕府の新君(徳川家綱)の誕生を祝って建立したことが記される。また、この相輪の冶工として宮崎彦九郎藤原朝臣吉綱(初代 宮崎寒雉<sup>かんち</sup>の父)の名が記されている。



- (1) 心柱：仏塔の中央を上下に貫く1本の柱。通常初層から相輪までを貫くが、本件のように初層に心柱を通さない場合もある。
- (2) 相輪：仏塔の屋根最上部から伸びる金属製の装飾部分。
- (3) 露盤：相輪の最下部の部分。